

科目名 Subject	人に伝えたい映画の世界 Learning from the cinema world			教員名	富山 省吾	
開講年次	2	開講時期	後期	単位	2単位	
必修／選択	選択	授業形態	講義	時間	30時間	
実践的教育	○					
主な学習効果	知識・技能	主体的行動力	課題解決能力	多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力	日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力	美しく生きる力を実践できる能力
		○	○	◎		
科目の概要	映画は世界に通じる共通言語であり、娯楽として、アートとして世界中の人に絶大な影響を与えています。この授業は文化であり産業でもある【映画】について、概論を超えて専門的に深く知ることを目指します。「映画は面白い。映画作りはもっと面白い」（日本映画大学名誉学長 佐藤忠男）。通常、1本の映画の完成までには50人以上のスタッフが関わり、6ヶ月から1年の期間を必要とします。多様な人々が一つの目標のために長期間集まる映画作りの現場ではどのようなことが起きているのか。講座はまず映画制作の始まりから完成までを専門的視点から解き明かします。続いて誕生から130年の映画史を俯瞰し、さらにはビジネスとしての全体像を把握し今日の映画界の実相と課題を見出します。一方【映画】が世界の地域と人々をどう結び付けるか、映画が社会に果たす役割も学びます。傑作と呼ばれる映画の魅力の源泉を探ることは、アートと娯楽の融合の秘訣に触れる機会となります。こうして【映画】が持つ魅力の独自性を深く知ること、映画に携わるすべての人たちの自足する（自分自身が満足する）生き方や、観客が素晴らしい映画に出会った時になぜ人に話したくなるのか、その心の高まりの理由を理解できるようにします。そして、授業を通して、DP4の能力を育むことができます。					
授業方法	すべて対面授業をおこないます。90分×2 の授業枠で隔週で映画を鑑賞して授業を進めます。					
授業の目標	多くの人が集まって映画作りをする時、人々の結束を作り、危機を乗り越えることに役立つのは何かを知ること、様々なプロジェクトを完遂するための要諦(ポイント)が取得できます。映画史130年の俯瞰は目の前の物事の本質を深く理解するためには、起源と経過を知ることが重要だと教えてくれます。映画ビジネスを見渡すことで変化する今日の世界に欠かせない持続的発展のために何が必要かを理解し、傑作映画の誕生の秘訣を知るとは長く評価され続けるものの「価値の本質」を学ぶこととなります。映画人たちの「自足する生き方」に触れることは人生と仕事の両立を考える好例となります。映画が世界の人々の相互理解に役立つことを知ることコミュニケーションの本質を学び、映画の伝わる力の強さを考察することは「伝える」こと自体の意味を考える好機となります。授業全体としては、映画から学ぶことが他分野への高い汎用性を持つことに気付くことを目的とします。					
時間外学習 (予習・復習)	(復習50分) 「授業ノート」の作成。メモした授業のポイントを中心に授業の要点を箇条書きでまとめてください。15週が終わった時に自分の「映画ソムリエ」ノートを作ることが目標。「リアクションペーパー」作成。毎回の授業で印象に残った内容とそれに対する意見・感想を記入してください。これは授業ノートとは別内容の感想レポートです。共にメールで提出。(予習)「予習として次週の授業内容をシラバスで確認し、習得目標を認識する。(10分)」(復習) 可能な範囲で授業に出て来た映画を鑑賞すること。					
教科書・教材	教科書	なし				
	教材	なし				
	使用設備・備品	なし				
	参考文献	「ゴジラのマネジメント」 アスキー・メディアワークス刊				
評価方法	(授業ノート50%) 授業内容をどれだけしっかりと受け止められたか、を基準にノート内容を判断します。(リアクションペーパー30%) 授業を受け止めた自分がどう考え、新しい思考方法を持つことができたか、をどれだけ文章化できたかを評価します。(小課題20%) 最終回到30分で短いレポートを作成してもらい、その内容から、どれだけ授業が身に付いたかを判定します。					
	なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。					
学生へのフィードバックの方法	レポートに対して、コメントを返します。					
	リアクションペーパーに対して必要に応じて個別にコメントを返します					
履修上の注意	授業では出席は撮りません。授業ノートとリアクションペーパーの提出が出席確認になります。					
本科目履修と関連する資格	資格名	なし				

授業計画			
	授業内容	到達目標	予習・復習・備考
第1回	講座の始まりとして 映画の製作現場で起きる様々な出来事について聞いて、映画作りの面白さと困難を知る。	人と物と情報が密集し交錯する制作現場から、映画が完成に到達するための問題点と解決方法を学び、自分の課題解決に活用する。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第2回	映画を知るために130年の歴史とエポックの年を学び、ゴールとしてコロナ禍前後の激変した今日の映画の最新状況を知る。	映画の歴史を知る手法が、ふらゆる対象に対しても有効な接近方法であることを学び、他学習に活かすことができるようになる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第3回	映画「恋する女たち」鑑賞する。 98分	1986年公開作品を鑑賞し、青春映画の普遍性の中から映画の持つ魅力と、若者らしさ、若さの表現手法を知ることができる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第4回	映画の仕事 1. 企画・脚本。「映画の種」である企画開発から脚本作成への手順を学び、他分野にも応用できることを理解する。	「企画書から発展させたストーリー展開」はどの仕事でも役立つ基本であることを学び、自身の課題に活用できるようになる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第5回	映画の仕事 2. 準備。映画は準備期間中に、密度を増しながら成長することから、準備の意味と本質を理解する。	適正な時間を掛けた正しい準備が良い結果を生む最善策であることを学び、自身の課題に対して実践できるようになる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第6回	映画の仕事3. 撮影・仕上げ・公開。困難を克服して完成した映画は宣伝 配給 興行など多くの人を経て劇場公開される事を知る	映画製作から課題解決法と大人数作業のコツを学び、完成映画に関わる多様な職種の思考・手法を自身の課題解決に活用できる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第7回	映画「誘拐」鑑賞する 109分	1997年公開作品を鑑賞し、実現困難な都心での撮影が映画に果たす役割と、困難を乗り越えた時の効果を体感することができる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第8回	映画の仕事 4. 映画と美容「ヘアメイク・特殊メイク」映画のヘアメイクと特殊メイクについて一流現役スタッフの取材から学ぶ	映画のヘアメイクと特殊メイクの現状を学ぶことで、自身の将来の選択肢の判断材料にすることが出来る。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第9回	映画界の未来 「変貌する映画と観客」「コロナ後の映画の行方」 激変する現代から映画と観客はどこを目指すのかを推論する。	パンデミックへの映画界の対処法から課題解決に向かう手法と思考を学び、自身の課題解決に活かすことができるようになる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第10回	傑作映画の条件 映画史に遺る名作が持つ映画の神髄を説明する。それは映画に留まらず「傑作」と「美」が持つ共通点を知る。	傑作映画の魅力を平易に分析し、感動する人の心の動きを学ぶことで、「美の発見」への道標コンパスにすることができる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第11回	映画「黒い十人の女」鑑賞 103分	1961年公開作品を鑑賞し、60年以上前の映画が描く今日に繋がる普遍性と、アートとしての美的魅力を発見することができる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第12回	「映画が豊かにする人生」 楽しく観るだけでなく人生そのものに触れ、映画をより深く味わうためのシネマ・リテラシーを得る。	映画の正しい読み解き方を学ぶことで、自身が関わるすべての表現世界での課題解決に活用できるようになる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第13回	選りすぐりの本から学ぶ「映画・書くこと・考えることについて」 橋本忍「複眼の映像」などから映画と表現について深く知る。	映画と脚本について書かれた名著の神髄を学ぶことで、自分の言葉で自分の考えを文章にできるようになる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第14回	映画の仕事は人を作る。映画作りの心得を深く理解し実践し、「スタッフワークと人間力」を学ぶ	「準備」の真意を理解して万事への正しい対応姿勢を体得し、映画作りの過程から学ぶ協働する技能を自身の課題解決に応用できる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。(予習)次週の授業内容の習得目標を認識する。
第15回	映画「父の結婚」鑑賞30分 講座全体集約。鑑賞映画と学んだことから、自分の考えと言葉で小論文を書き、振り返る。	多視点から見た「映画」を再度総覧して、習得した実践的思考・手順・言葉を確認し、自身で使う準備を完了することができる。	(復習)授業をまとめた「授業ノート」と感想を記した「リアクションペーパー」作成。